

## 短報

## 新図書館の利用状況

山崎 裕司<sup>1,2)</sup>, 依光 朋子<sup>1)</sup>, ロー 亜矢子<sup>1)</sup>, 中野 良哉<sup>2)</sup>, 平賀 康嗣<sup>2)</sup>, 稲田 勤<sup>3)</sup>,  
篠田 かおり<sup>4)</sup>, 西野 愛<sup>4)</sup>

## Usage of the new library

Hiroshi Yamasaki<sup>1,2)</sup>, Tomoko Yorimitsu<sup>1)</sup>, Ayako Roe<sup>1)</sup>, Yoshiya Nakano<sup>2)</sup>, Yasushi Hiraga<sup>2)</sup>  
Tsutomu Inada<sup>3)</sup>, Kaori Shinoda<sup>4)</sup>, Ai Nishino<sup>4)</sup>

## 要 旨

高知リハビリテーション学院図書館は、平成26年5月より新築された別館に移転し、新図書館としてサービスをスタートさせた。そこで、新図書館への移行にともなう図書館利用状況の変化について報告する。

図書館利用人数は、平成25年度に比較して66%の増加を認めた。同様に貸出冊数は、21%増加、文献検索数は53%の増加を認めた。国家試験問題への参加者数は、総学生数に占める割合において平成25年度63%から81%へ増加した。

以上のような利用状況からみて、高知リハビリテーション学院新図書館は良好に機能しているものと考えられた。

キーワード：図書館，利用者数，貸出冊数

## 【はじめに】

高知リハビリテーション学院図書館は、平成26年5月より新しく建築された別館に移転し、新図書館としてサービスをスタートさせた。新図書館の面積は521m<sup>2</sup>であり、以前の2倍強の規模となった。所蔵可能冊数は30,000冊で、12,000冊が収蔵可能な移動式の書庫を加え、合計で42,000冊の所蔵が可能となった。閲覧席数は28席から83席へ増設され、30名が利用可能なグループ学習室が設置された。検索用のパソコンは6台から10台へ増加した。この他、視

聴覚資料の閲覧用DVDプレーヤーが1台設置された。

旧図書館から大幅な図書館機能の向上が図られたことになる。そこで、新図書館への移行が有効に機能しているか否かを検討するため、図書館利用状況について調査した。

## 【方 法】

分析対象は、平成26年度の6月から10月のデータおよび比較対照群として平成23年、24年、25年の6

1) 高知リハビリテーション学院 図書館

The Library of Kochi Rehabilitation Institute

2) 高知リハビリテーション学院 理学療法学科

Department of Physical Therapy, Kochi Rehabilitation Institute

3) 高知リハビリテーション学院 言語療法学科

Department of Speech, Language and Hearing Pathology, Kochi Rehabilitation Institute

4) 高知リハビリテーション学院 作業療法学科

Department of Occupational Therapy, Kochi Rehabilitation Institute

月から10月のデータとした。

調査対象は、図書館利用人数、貸出冊数、貸出利用人数、Medical Online による文献検索数ダウンロード数、国家試験問題への参加者数とした。

## 【結 果】

### 1. 図書館利用人数（表1）

平成23年度から平成26年度までの利用人数を比較した。平成23年度から平成24年度にかけて11％、さらに平成25年度にかけて5％増加していた。新図書館へ移行した平成26年度は、平成25年度に比較し、66％の増加を認めた。

新しく設置されたグループ学習室の利用人数は、6月328人、7月295人、8月166人、9月55人、10月273人であった。夏休みとなっている8月、9月を除く6月、7月、10月の平均利用者数は300人であり、平均開館日数が約20日であることを考慮すると1日当たり15名の利用者数であった。

表1. 利用者数の推移

利用者数	6月	7月	8月	9月	10月	合計
平成23年度	2880	3305	1452	1131	2968	11736
平成24年度	3229	3893	1912	586	3349	12969
平成25年度	3142	3964	2017	592	3871	13586
平成26年度	6086	6610	2290	1662	5937	22585

### 2. 貸出冊数（表2、表3）

貸出冊数は、平成23年度から平成24年度にかけて2％増加、平成24年度から平成25年度にかけて7％減少となっていた。新図書館へ移行した平成26年度は、平成25年度に比較し、21％の増加がみられた。貸出利用人数では、平成23年度から平成24年度にかけて8％減少、平成24年度から平成25年度にかけて

表2. 貸出冊数の推移

貸出冊数	6月	7月	8月	9月	10月	合計
平成23年度	1295	945	582	553	1240	4615
平成24年度	1148	884	801	460	1407	4700
平成25年度	1041	883	687	313	1428	4352
平成26年度	1448	879	755	614	1549	5245

表3. 貸出人数の推移

貸出人数	6月	7月	8月	9月	10月	合計
平成23年度	713	537	304	292	676	2522
平成24年度	605	511	364	190	660	2330
平成25年度	558	475	362	151	792	2338
平成26年度	793	479	282	284	795	2633

0.3％増加していた。新図書館へ移行した平成26年度は、平成25年度に比較し、13％の増加となった。

### 3. 文献検索数（表4）

メディカルオンラインを利用した文献検索ダウンロード数は、平成23年度12,600件、平成24年度12,173件、平成25年度10,549件、平成26年度16,151件であった。平成23年度から平成25年度にかけて検索ダウンロード数は減少傾向にあったが、新図書館への移行後53％の増加を認めた。

表4. 文献検索数の推移

ダウンロード数	6月	7月	8月	9月	10月	合計
平成23年度	4982	2641	2006	1686	1285	12600
平成24年度	2782	4407	2041	1671	1272	12173
平成25年度	2453	2440	1684	1934	2038	10549
平成26年度	4204	2993	2612	3447	2895	16151

### 4. 国家試験問題への参加状況（表5）

平成22年1月より実施している国家試験問題への参加は、平成23年度151人、平成24年度229人、平成25年度349人、平成26年度461人と右肩上がり推移している。総学生数に占める参加者の割合は、平成23年度30％、平成24年度44％、平成25年度63％、平成26年度81％となった。特に、新図書館へ移行した平成26年度では、1、2年生においてそれぞれ70％、

表5. 国家試験問題の利用推移

国家試験問題(人)	1年	2年	3年	4年	合計
平成23年度	15	8	46	82	151
平成24年度	24	42	87	76	229
平成25年度	60	69	114	106	349
平成26年度	102	107	122	130	461

55%の増加を認めた。

### 【考 察】

新図書館への移行にともなう図書館利用状況の変化について調査した。

新図書館の利用者数は、平成25年度と比較して66%の大幅な増加を認めた。この増加幅は、平成23年度から平成24年度、平成24年度から平成25年度の増加幅を大きく上回るものであった。この期間中、総学生数には大きな変化はなく新図書館への移行に伴って利用者数の増加が図れたものと考えられた。但し、新図書館には利用者がゲートを通過するたびに自動的にカウントされるシステムが導入された。平成25年度までは利用者が自分でカウンターを押すことによって利用者数を把握しており、システム変更が利用者数増加に一部寄与したものと思われる。

新図書館への移動によって貸出冊数、貸出人数ともに増加した。平成23年度から平成25年度にかけては、貸出冊数・貸出人数ともに減少傾向にあった。したがって、新図書館への移行によって図書の利用状況は改善しているものと考えられた。

メディカルオンラインを利用した文献検索ダウンロード数は、平成23年度から平成25年度にかけて減少傾向にあった。しかし、新図書館への移行後53%の増加を認めた。検索用コンピューター数の増加による効果が生じたものと推察された。

国家試験問題への参加者数は、平成23年度以降右方上がりに推移し、新図書館への移行によって、総学生数の81%に到達した。特に、1、2年生の参加者数の増加が顕著であった。新図書館の建設が、図書館への学生の関心を高めた結果、より低学年から

の図書館利用が促進されたものと推察された。

平成20年以降、高知リハビリテーション学院図書館では、利用者数の増加、貸出冊数の増加を目的として様々な取り組みを行ってきた<sup>1)</sup>。その結果、平成25年までの間に利用者数の増加、貸出冊数の維持を図ることができた<sup>2)</sup>。今回の新図書館への移行によって、これらの成果はさらに推進されていた。手狭であった旧図書館では、図書館スペースの無さから図書館利用を敬遠する学生が少なからず存在するものと推測されていた。今回の利用状況の改善は新図書館における十分なスペースと機能が生かされた結果と考えられる。

大学生の平均読書時間の短縮や読書時間ゼロの学生が4割に上っているとする調査結果がある<sup>3)</sup>。また、大学図書館における年間平均貸出冊数は、私立大学では2005年以降一貫して低下傾向にある<sup>4)</sup>。以上のことを考慮すると、高知リハビリテーション学院新図書館の利用状況は極めて良好なものと考えられる。

### 文 献

- 1) 依光朋子, 山崎裕司・他: 図書館来館者数の増加を目的としたポイントカードの導入. 高知リハビリテーション学院紀要14: 23-25, 2012.
- 2) 依光朋子, 酒井寿美・他: 高知リハビリテーション学院図書館報告2012. 高知リハビリテーション学院紀要15: 1-6, 2013.
- 3) 日本出版学会: 白書出版産業2010. 文化通信社, 2010.
- 4) 日本図書館協会: 日本の図書館 統計と名簿. 日本図書館協会, 2005-2013.

